



## シンポジウム開催と参加へのお礼

和歌山地域経済研究機構

理事長 森口 佳樹

[和歌山大学経済学部長]

経済環境が相変わらず厳しい上、政治情勢も安定せず、かつ総理大臣が毎年変わるような状況の下、さらに政権交代により経済政策の一貫性についても疑問がないわけではない折柄、われわれは日々の生活を現実に過ごしています。否過ごしていかなければならない状況におかれています。

抽象的・理論的研究と和歌山という地域における具体的経済・経営環境への対応、この双方を架橋し、地に足をつけた研究を行うために和歌山地域経済研究機構が設立されて、早 14 年を経過しました。地域に根ざした活動を続ける和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所そして和歌山大学経済学部ならびに観光学部が協力してさまざまな共同研究を展開してまいりました。

このような共同研究が蓄積されていく一方で、その知見を現実的に地域に還元する具体的取組においてこれまで欠けているようにも感じられていました。そこで去る平成 22 年 6 月 15 日に最近の研究成果 4 テーマについてシンポジウムを開催し、地域活性化について具体的な提案をお示しする取組を開催し、地域の皆様の参加をお願いしたところ 100 名を優に超える出席をいただき、大変感謝しています。特に当日はあいにくの天候であったにもかかわらず、熱心にご聴講いただき、質疑応答において予定時間を超過してもなお質問や具体的提案が提示されるなど、大変に熱のこもったシンポジウムとなりました。当日発表された研究者と熱心にご聴講いただいた皆様方に深謝申し上げるとともに、今後とも本機構の研究活動へのご支援をお願いするものであります。

今回のシンポジウムにおいてさまざまに発表された研究成果において、和歌山市の中心市街地の魅力の低下が如実に現されていたように感じられました。やはりデータとしてはっきりと現実を提示されるとその深刻度の大きさが見て取れます。和歌山市において具体的に見れば市街地周辺地域に大規模な商業集積が見られることは否定できません。超高齢化・人口減少社会において中心市街地活性化策を展開する場合に、コンパクトシティの形成という手法がよく提案されます。積雪地としてのある意味での弱点をもつ青森市や富山市がその成功例としてよく紹介されていますが、和歌山という気候に恵まれた地域においてはこの議論は当てはまりません。したがって和歌山独自の工夫が必要となるわけです。この独自の工夫・魅力作りをいかように展開・結実させることができるかが勝負です。ヒントは他の地域における取組から得られたとしても、やはり地域独自の工夫が必要となる

わけで、この点において本機構の研究を役立てていただければと考えています。

さらに一定の成果を挙げたととしてもそれを継続することはかなり困難です。常に新たな取組が必要となります。有名な観光地、たとえば京都などとは異なり、一定の期間を経過すると飽きられてしまうということが問題です。特に観光地ではない中心市街地という存在が継続的に顧客を獲ることの困難さはいうまでもありません。そのためにはプラスアルファの魅力が必要になるように思います。今回のシンポジウムにおいては河川や旧跡の利用も提案されましたし、食の面からも一定の提案をいただきました。和歌山においてはすでに有名なラーメンや、それ以外でもなれ寿司や海産関係の料理等の蓄積がありますので、これらの観点からも総合的な魅力の発信ができれば、今後の明るい展望につながるものと存じます。

いずれにしてもオンリーワンの魅力が発揮できなければ生き残りのできない時代となっています。当事者の真摯な努力を支援する具体的成果を本機構の研究成果で示してゆければ幸いです。今後も地域の皆様からのご支援・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。